

# 機動戦士と装甲核がIS の世界に乱入

弾薬庫

## 注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## あらすじ

数多の戦争を経験した機動戦士

機動兵器を駆る渡鴉と山猫

女性にしか扱えないパワードスーツ

いくつものDestinyが交わる時、少年少女は何を視る

# 目次

渡鴉と山猫とNTとイノベイダーとSE	
EDとIS	1
ジオン魂《前編》	6
ジオン魂《後編》	11



## 渡鴉と山猫とNTとイノベイダーとSEEDとIS

少年が丘の上に立っていた。その光景自体におかしいところは無い、上空の様子以外は。

上空には大地があった、ここはスペースコロニー、円筒型の居住装置だ。

少年は驚いていた、いつもと違うことに。

少年「誰だ貴様は」

少年は問いかけた、目の前の女性に

女性「犬と少女が出てくると思っただけ？私の名前はゼロ、貴方の相棒よ《ヒロ・ユイ》」

ゼロと名乗った女性の背中から白鳥のような翼が飛び出してきた。

ヒロ「何を言っている？そんなふざけんな」

ゼロ「ふざけじゃないわ。今からある世界に貴方を連れて行くのよ、そのための挨拶よ。」

ヒロの言葉を遮りゼロは強気に言った

ヒロ「じゃあその証……」

ゼロ「ついたなら否が応でも認めざるを得なくなるわ。」

ヒロ「おいこらま…」

ヒロが言おうとした瞬間周りは真っ白になった。

日本・某所

特徴的すぎる服を着た女性？と普通の女性がいた。

女性A「ちーちゃん、この近くで時空に歪みが。」

特徴的すぎる服を着た女性？がもう一人の女性に時空の歪みがあると報告した。

ちーちゃん「そうか東、様子を見て来る。」

ちーちゃんと呼ばれた女性は出て行こうとしたがいきなり腕をつかまれた。

東「私もいく♪」

ちーちゃん「この状況を楽しんでいないか？」

東「まつさかー♪」

ちーちゃん「まあいい、いくぞ。」

そして二人は時空の歪みへ向かった。《IS》を展開して。

海岸

「「「「「うわあああああ「「「「「」」」」」」」

複数の《少年》《少女》が落ちてきた、大半はいきなりうまく着地できずに倒れた。頭に赤い鉢巻のようなものを巻いたうまく着地できた少年が口を開いた

少年A「ここは一体どこだ？」

いかにも中華風な少年Aがそれに続いた

中華A「兄貴、俺ここに来る前に、日本に行くって聞いたんだけど。」

兄貴「日本!？」

頭に赤い鉢巻のようなものを巻いた少年が驚いた、それも当然、彼は（ネオジャパン

代表《ドモン・カッシュ》

なのだから。

???「それは本当か!!!？」

後ろからいきなりヘルメットを被った少年が大声で叫んだ。

有澤「おっと、驚かしてすまない、私の名前は《有澤隆文》だ、日本人だ。」

ヘルメットを被った少年が自己紹介をした、若返っているのは自覚している、体が軽

いからだ。

少年B「有澤隆文だと!？」

パイロットスーツを着た少年が驚いた。その直後

???「貴様ら何者だ!!!」

後ろから女性のような声が聞こえた。その直前各々の武器を構えた。

拳銃、刀、レイピア、ナイフ、青龍刀

そこに立っていたのは水着?のようなものと機械を纏った女性が立っていた

女性「私が話しかける前に気づくとは、貴様達どこから侵入した?」

ヒイロ「侵入?何を言っている?それに貴様らは誰だ?」

ヒイロは状況が分からなかった、だから問いたただした、本人はおかしいことは聞いていないつもりだった。

女性「なつ、《ブリュンヒルデ》を知らないのか?」

女性はかなり動揺していた。

そして金髪の黒い服を着た少年が言った。

少年C「知らないしなぜそんな服を着ている?男としては目のやり場に困るのだが…」

もう一人の女性?が口を開いた。

女性?「やつぱり《異世界の人間》なんだね!!」

中華風の少年Aと牧師風の服を着た少年二人組と銀髪の姉妹?がさげんだ

「「「「いいいいいい異世界!?!」」」」

女性?「よしちーちゃん今から彼らを案内しよう!!」

ちーちゃんと呼ばれた女性はためいきをつきながら

ちーちゃん「30人近くいるが?」



女性？「大丈夫!!」

ちーちゃんと呼ばれた女性は名乗った  
千冬「私の名前は『織斑千冬』だ」

## ジオン魂《前編》

IS学園 朝

アムロ（あの後、篠ノ之と織斑と話をした。そしてシャアやカミーユ、アスラン、有澤、トリトン、バナージ

見知っている名や知らない名、かみ合わない話そして結論がここ《IS学園》に入学することになった。）

入学式が終わり一組で面倒なことが起きた。

一組には

《ハーディ・シュタイナー》《ミハイル・カミンスキー》《アンディ・ストロース》

《バーナード・ワイズマン》《ガブリエル・ラミレス・ガルシア》《ノリス・パツカード》

《アイナ・サハリン》《ドズル・ザビ》がいった

一夏「よかった男は俺だけかと思っただけ、同性が一人でもいてくれると少しは気が楽になるんだよな。」

ISの主人公一夏がジオンの面々に話しかけた。

バーニイ「ああ、よろしくな。」

アイナ「私は女性ですけど仲良くしましょう。」

ノリス「アイナ様の付き人のノリスでございます。」

ドズル「わしはドズルだ、よろしく頼むぞ一夏。」

バーニイ、アイナ、ノリス、ドズルは快く返すが、

バーニイ以外のサイクロプス隊のメンバーは無視していた。

そんな事をお構い無しに金髪の少女が話しかけてきた

セシリア「ちよつとよろしいかしら？」

一夏「へ？」

アイナ「はい」

バーニイ「ん？」

ドズル「おお」

ノリス「ああ」

ハーデイ&ミハイル&アンデイ&ガブリエル「……………」

それに一夏とバーニイは間の抜けた返事、ハーデイとハイルとアンデイとガブリエルにいたっては無視

それに対しセシリアはややイラついたようで

セシリア「このセシリア・オルコットが声を掛けていると言うのになんですかその返

事は!!」

一夏「誰？」

ドズル「何とか候補生と言っていたが……」

バーニイ「スマン自己紹介の時寝てた」

ノリス「ハアア」

アイナ「代表候補生のセシリア・オルコットさんよ」

ガブリエル「五月蠅い女だな」

ハーデイ&ミハイル&アンデイ「ああ」

これでセシリアの怒りのボルテージがふっきれ

セシリア「エリートが話しかけているのその態度は何ですか!!」

ノリス「エリートと言うのは貴族や財団のようなものの事ですか?それならばここに  
いるドズル・ザビ様も当てあはまると思うのですが?」

ドズル「俺はそんな柄じゃないのだが……」

とここまで言い合いが激化したタイミングで、チャイムが鳴った

そしてセシリアは怒りながら席に着いた。

千冬「来週に行われるクラス対抗試合の代表を決めようと思う。自薦、他薦問わないぞ。」

生徒A「一夏君を推薦します。」

一夏「辞退します。」

千夏「拒否権は無い」

生徒B「バーナード君を推薦します。」

アイナ「ノリスを推薦します。」

ノリス「了解しました。アイナ様」

その瞬間セシリアがいきなり立ち上がり大声を上げた

セシリア「納得いきませんわ!!男がクラス代表だなんて恥晒しもいいところですわ!!

このセシリアに一年間もそんな屈辱を味わえと言うのですか!!

大体こんな島国に来るといふこと自体屈辱なのに!!

その男たちだつてI Sが使えると言うだけで入学して!!

男なんてク:~:

バキイ、机が壊れる音とともに大男が立ち上がった。

ドズル「貴様!!!わしのごときは多少馬鹿にしてもかまわん!!!!だがわしの部下を馬鹿にし

たことは身に染みさせてやる!!!」

ドズルが言い終わると同時に!

スパアン

ドズルの頭に帳簿が直撃しドズルが倒れた。

千夏「学校の備品を壊すな、あと自薦、他薦は問わないと言ったはずだ。」  
その後色々あつて

結果、来週の月曜にクラス代表決定戦が開催される

某所 亡国機業施設

関係者A「海賊が現れたぞ」

関係者B「ISを出せ」

胸に髑髏の描かれた機体が亡国機業施設を襲撃していた

髑髏の描かれた機体のパイロット「X3作戦行動を開始します」

亡国機業施設がまた一つ消えた。

ト o b e c o n t i n u e d

## ジオン魂《後編》

機体説明

MSM-03C      HI-GOGG

ハイゴッグ

武装    前腕部メガ粒子砲

連射が利く高威力砲

ビーム兵装

大型ミサイル

大型の対拠点制圧兵器

特殊魚雷

海、陸どちらでも使用できる魚雷

120mm機関砲

ミサイル迎撃用の機関砲

威力が低く牽制程度の能力

格闘用クロー

ベースジャバー

爪

空戦用のオプション

メガ粒子砲を一門備えており

支援機としても使える

備考

水中戦闘用に作られている機体

大型ミサイルによる強襲も可能

パイロット ミハイル・カミンスキー

ガブリエル・ラミレス・ガルシア

アンディ・ストロース

MSM-07E Z、GOK-TYPE

ズゴックE型

武装 前腕部メガ粒子砲

連射が利く高威力砲

ビーム兵装

特殊魚雷



格闘用クロー

海、陸どちらでも使用できる魚雷

爪

ベースジャバー

空戦用のオプシヨン

メガ粒子砲を一門備えており

支援機としても使える

備考

水中戦闘用に作られている機体

全体的なスペックがハイゴッグを上回る

パイロット ハーディ・シュタイナー

MS-18E KAMPFER

ケンプファー

武装 ビームサーベル

ビーム刃を形成する格闘兵装

チェーンマイン

機雷をワイヤーでつなげた一撃必殺兵器

197mm口径ショットガン

散弾銃

ジャイアントバズ

360mm口径ロケット砲

シユツルムファウスト

無誘導ロケット砲

頭部バルカン

ミサイル迎撃用の機関砲

威力が低く牽制程度の能力

ベースジャバー

空戦用のオプシヨソ

メガ粒子砲を一門備えており

支援機としても使える

備考

強襲用機体

装甲を薄くする代わりに機動力を底上げた機体

パイロット ミハイル・カミンスキー

MS-06FZ ZAKU II FZ

ザクII改

武装 ヒートホーク

溶断する為の斧

MP-80マシンガン

90mm口径のマシンガン

下部にグレネードランチャーを装備

クラツカー

特殊グレネード

ジャイアントバズ

360mm口径ロケット砲

シュツルムファウスト

無誘導ロケット砲

ベースジャバー

空戦用のオプシヨン

メガ粒子砲を一門備えており

支援機としても使える

備考

凡用機体

機体のスペックが安定している為さまざまな戦法をとれる

パイロット バーナード・ワイズマン

MS-06SF ZAKUⅡFS

ドズル専用ザクⅡ

武装 大型ヒートホーク

大型の溶断する為の斧

ヒートホーク

溶断する為の斧

頭部バルカン

ミサイル迎撃用の機関砲

威力が低く牽制程度の能力

ベースジャバー

空戦用のオプション

メガ粒子砲を一門備えており

支援機としても使える

備考

ドズル専用機

ドズルの趣味で近接戦闘用&トゲトゲにされている

パイロット ドズル・ザビ

MS-07H-8 GOUF-FLIGHT-TYP

グフ・フライトタイプ

武装 ヒートソード

溶断のする為の剣

ガトリングシールド

75mmガトリング砲とシールドを合体させた武器

35mm連装ガトリング

近距離迎撃用だが威力は十分

ヒートロッド

ワイヤー状の高電圧兵器

備考

高機動空中戦闘用機

ヒートロッドという独特の武器で敵を追い詰める

パイロット ノリス・パッカード

MAX-110 APSARA S III

アプサラス III

武装 拡散メガ粒子砲

超高威力、超精密狙撃可能、マルチロック

一撃で勝負が決まる武装

備考

超大型戦略兵器

水の精アプサラスの名を冠した大型機

圧倒的な射角を誇る拡散メガ粒子砲を使用する

パイロット アイナ・サハリン

月曜に試合が決まりそれまでの間各々が訓練を行っていた

IS学園アリーナ

ドズル「よし、訓練を始めるぞ」

バーニイ「はい」

アリーナ内に大男と金髪の少年が立っていた。月曜の戦いに備えて訓練をするようだ。

ドズル「まずは浮遊だが俺たちの機体のスペックでは出来ないようだからベースジャバーを使うぞ」

バーニイ「これがビーム兵器を使えるだなんて驚きですね」

IS学園シヤアの部屋

クエス「なぜあなたがシヤアの部屋にいるの？」

ハマーン「私はシヤアの元恋人だからだ。」

クエスとハマーンがシヤアの取りあいをしていた。

~~~~~

IS学園 月曜 アリーナ

第一戦 セシリア・オルコットvsバーナード・ワイズマン

アリーナ内でセシリアは浮遊しながら待っていた

ところ代わりピット内

ドズル「バーニイ勝って来い」

ガブリエル「負けたらもつと威張り散らすからな」

ハーデイ「相手がこちらを舐めているお前程度でも勝てるだろう」

アンデイ「相打ちなんてやめろよ？」

ミハイル「勝ったらおごってやる」

バーニイ「わかりました。バーナード・ワイズマン、ザクⅡ改出撃する。」

バーニイはアリーナに降り立った。

上から見下ろすようにセシリアは言った。

セシリア「今なら、土下座すれば容赦して差し上げますわよ?」

バーニイ「生憎、投降はしないぜ」

セシリア「そうですか、ならば容赦しません!!」

セシリアはそう言い放ちスターライトMk-IIIを放った。

バーニイはホバーモードで避けながら隙を探した。

バーニイ「ここだっ」

バーニイはセシリアに向かって《何か》を投げつけた。

セシリアはすばやく反応し迎撃した。その反応は間違っではないなかった。煙幕弾で

なければの話だが、

煙幕でセシリアの視界が奪われた瞬間に、バーニイはベースジャバーに乗りメガ粒子

砲とマシンガンを放った。

マシンガンの弾幕は回避されたが亜光速で迫るメガ粒子砲は避けきらず直撃した。

その瞬間戦慄走る。



シールドエネルギーの80%が削がれたからである。その驚きに体を硬直させている間にマシンガンの弾とグレネードランチャーが直撃しシールドエネルギーは0になった。そして一戦目は呆気なく終わった。

第二戦 織斑一夏vsドズル・ザビ

ドズル「バーニイが勝つて来たんだわしも勝たねばな」

ドズル以外のジオン軍「ドズル閣下に栄光を」

ドズル「ドズル・ザビ、ザクII f s 出撃する」

開始と同時に2機は距離を一気に詰める。一夏はイグニッションブーストで離脱しようとしたがドズルの大斧の威力が強く一撃で30%のシールドエネルギーを削られた。

一夏「クツ思った以上に威力がある。」

即座にドズルはベースジャバーを支援機代わりにオートパイロットで使用した

一夏「あのレーザーが飛んでくる」

そう一瞬気をベースジャバーに向けた瞬間にドズルがジャンプで接近し連打を叩き込んだ。

これでドズルが勝つそう会場のほとんどが思い込んだ瞬間、一夏の白式が光りだした。



一夏「どゆうこと？」

一夏だけ状況分かっていない、周りは呆れはてた。

ノリス「そのエネルギーがシールドエネルギーからとられているのですよ一夏殿」  
一夏「ああ、なるほど」

同刻某所

ここは地下のようだ。

数名の少年少女が居た。

金髪の少女「この世界を戦乱に向かわせるわけにはいきません。」

金髪の少女は綺麗なエメラルド色の目に強い意志を灯しながら言った。

赤毛の少女「姫様まずは篠ノ之束近づくほうが一番早い方法だと思います。」

赤毛の少女は機械的に淡々と言った。

姫様「分かりましたそれでは、ネオ・ジオン代表として……いや、

クロスボーンバンガード代表として直々に出向きます。

マリィダ、ブラック、バッドデイ、シーブック、アレヤ付いて来なさい」

マリィダと呼ばれた赤毛の少女と名前を呼ばれた人物が返事をした。

マリィダ「はっ」

ブレット「了解マスター（依頼主）」

バツデイ「分かった」

シーブック「了解」

アレルヤ「戦争根絶の為」